

令和7年度
学校評価報告書

香川県立善通寺支援学校

令和7年度 学校評価

1 はじめに

学校教育法 42 条に「教育活動その他の学校運営の状況について評価を行い、その結果に基づき学校運営の改善を図るため必要な措置を講ずることにより、その教育水準の向上に努めなければならない」とある。これが学校評価をおこなう法的根拠である。また、同 43 条では「教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を積極的に提供するものとする」とあり、学校評価の情報提供が義務づけられている。

本校では、校長、教頭、部主事、各校務部長からなる学校評価委員会を中心に学校評価をおこなっており、その結果をホームページに掲載することで公表している。さらに学校関係者評価委員会を開催し、評議員やPTA代表などからも広く意見を求めたうえで評価結果を取りまとめ、次年度の学校運営の改善に役立てている。

2 令和7年度学校評価の取組

(1) 今年度のグランドデザイン、重点目標と方策



善通寺支援学校グランドデザイン



重点目標

児童生徒の病状や特性の理解を深めることで、専門的な知識・技術を高め、指導内容や方法、指導体制の工夫と改善に務める。

方策

- ・実態表を活用し児童生徒の客観的な実態把握に努める。
- ・児童生徒の特性に合った指導や支援の専門性を高めるための教員研修を充実させる。
- ・部会やグループ会等を有効活用して教員間の情報交換を密にすることで、一丸となって指導に取り組む。

(2) 学校評価の方法及び年間実施計画

○学校評価の方法

- ①各学部・各校務部において、経営計画を作成する。
- ②各学部・各校務部の経営計画をもとに、「学校評価アンケート」の質問事項を設定する。
- ③保護者、病院関係者、職員対象の「学校評価アンケート」を実施し、集計、分析及び考察を行って、次年度の学校運営の改善に生かす。

○年間実施計画

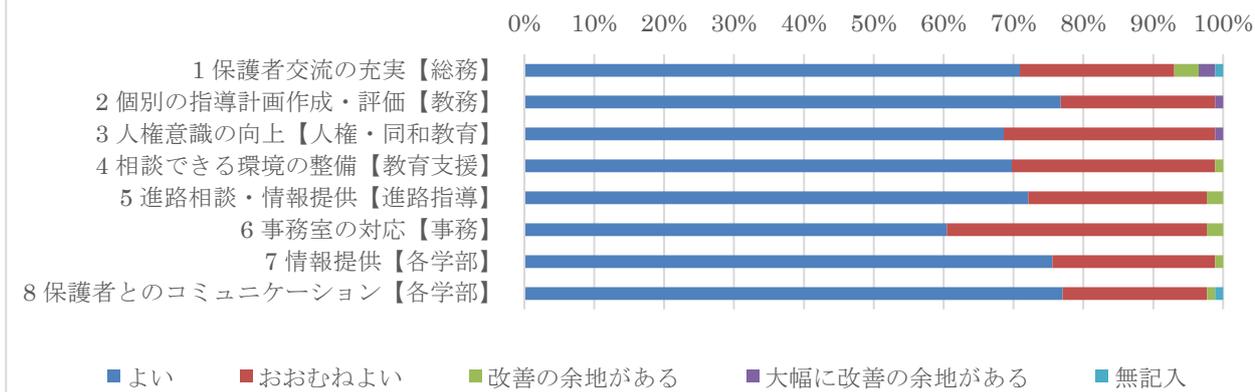
月	評価	内 容
4月	P ↓ D ↓ C ↓ A サイ クル で 実 施	<ul style="list-style-type: none"> ・学校評価委員会設置【校長、教頭、部主事、各校務部長】 ・運営委員会 ・職員会議で今年度の「課題と重点目標及び方策」について説明
5月		<ul style="list-style-type: none"> ・令和7年度校務部経営計画、評価項目等の検討
6月		<ul style="list-style-type: none"> ・第1回学校評価委員会 令和7年度学校評価計画及び実施に関する検討 ・職員会議で令和7年度学校評価計画及び実施に関する周知
7月		<ul style="list-style-type: none"> ・第1回学校評議員会 各部経営計画、校務部重点目標、方策等説明、授業見学等
9月		
10月		<ul style="list-style-type: none"> ・第2回学校評価委員会 「学校評価アンケート（保護者・医療機関・教職員対象）」項目の検討
11月		<ul style="list-style-type: none"> ・企画運営委員会及び職員会議で「学校評価アンケート」実施について説明
12月		<ul style="list-style-type: none"> ・「学校評価アンケート」実施、集計等
1月		<ul style="list-style-type: none"> ・各学部・校務部で「学校評価アンケート」集計結果の分析等 ・第3回学校評価委員会 各学部・校務部の分析結果の検討、自己評価等
2月		<ul style="list-style-type: none"> ・学校関係者評価委員会（学校評議員、PTA会長・副会長） 各学部・校務部の分析、自己評価の報告・説明
3月		<ul style="list-style-type: none"> ・職員会議で学校評価結果報告 ・学校評価の結果公表（学校ホームページ） ・学校評価結果による次年度の「課題と重点目標及び方策」の検討

3 学校評価質問事項及び評価項目と集計結果

<保護者>

No	質問項目	評価項目
		校務分掌
1	学校は、保護者間の交流が深まるように、学校行事や保護者交流会等の内容を工夫して計画・実施していますか。	1 保護者交流の充実【総務】
2	個別の指導計画(通知表)の目標は、児童生徒の実態に即した目標でしたか。	2 個別の指導計画作成・評価【教務】
3	学校は人権に関する情報を児童生徒の指導に活かしており、人権意識が高まる取り組みができていますか。	3 人権意識の向上【人権・同和教育】
4	学校はスクールカウンセラーによる教育相談や座談会などを計画・実施し児童生徒についての相談できる十分な環境を整えていますか。	4 相談できる環境の整備【教育支援】
5	学校は、進路に関する資料集、進路だより、実習説明会、進路相談会を通して、進路に関する情報の提供や相談が適切に行えていますか。	5 進路相談・情報提供【進路指導】
6	事務室窓口や電話の対応、取り次ぎは適切にできていますか。	6 事務室の対応【事務】
7	学校は、お便り、研修会、交流会、ホームページ等を通して保護者が求めている情報を提供できていますか。	7 情報提供【各学部】
8	学校は、普段のやり取り、連絡帳、懇談等を通して保護者の皆さんとコミュニケーションをとることができていますか。	8 保護者とのコミュニケーション【各学部】

保護者（106配付 86回収 回収率81.1%）



「よい (A)」「おおむねよい (B)」と回答した保護者の割合

	小	中	高	院内	全体
1 保護者交流の充実【総務】	100%	92.3%	89.5%	94.4%	94.1%
2 個別の指導計画作成・評価【教務】	100%	100%	95.0%	100%	98.8%
3 人権意識の向上【人権・同和教育】	100%	100%	95.0%	100%	98.8%
4 相談できる環境の整備【教育支援】	100%	100%	95.0%	100%	98.8%
5 進路相談・情報提供【進路指導】	100%	96.2%	95.0%	100%	97.7%
6 事務室の対応【事務】	100%	96.2%	95.0%	100%	97.7%
7 情報提供【各学部】	100%	100%	95.0%	100%	98.8%
8 保護者とのコミュニケーション【各学部】	95.7%	100%	100%	100%	97.7%

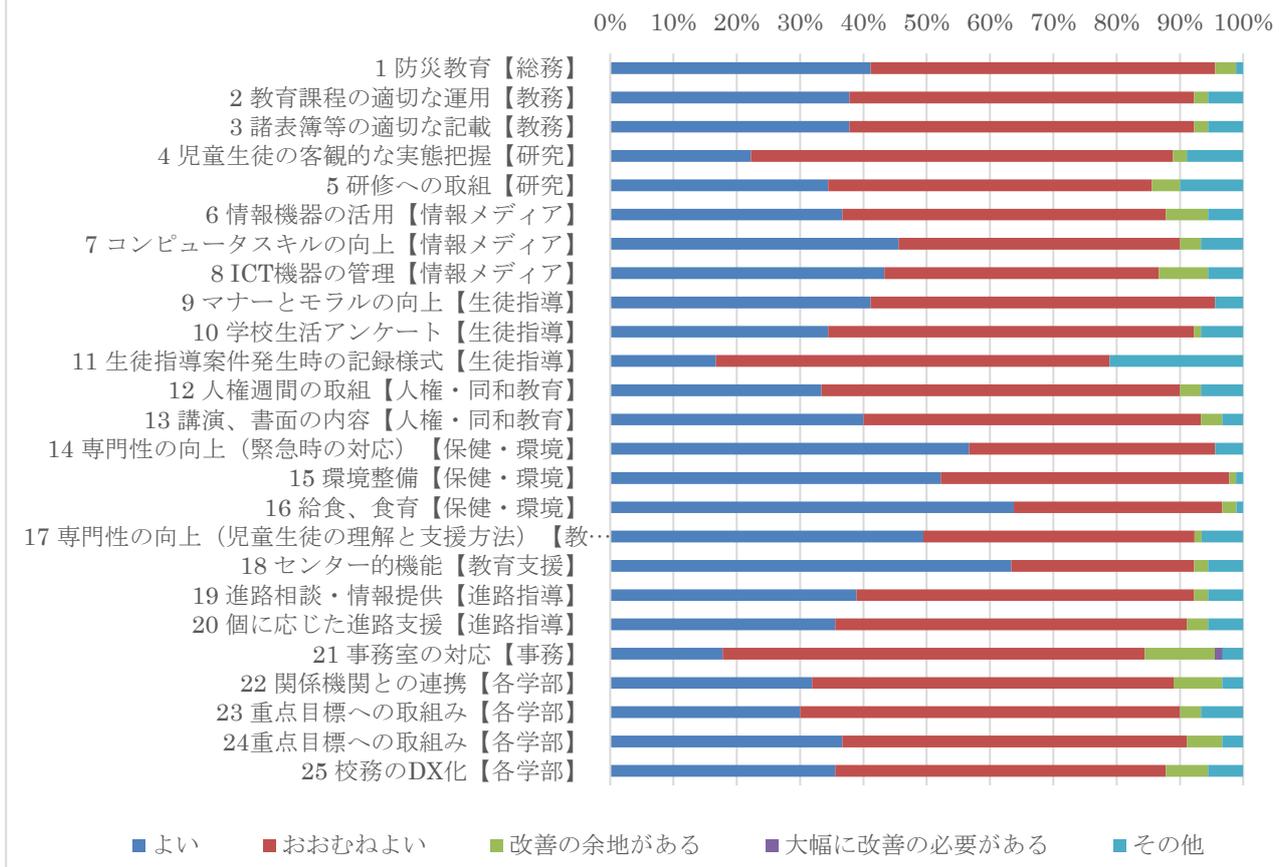
保護者対象のアンケートについて

全体として概ね良好な評価を得ている。保護者交流について若干低めの数字となっている。「いろいろな立場の保護者がいるのですべて交流は難しい」という意見も出ていた。後でも触れるが、次年度は新しい取組を行う予定である。

事務室の対応について昨年度より高評価を得ている。保護者にある程度理解を得たと考えるが、「朝は、もう少し明るいトーンでお願いしたいです。受話器を置くときも、もう少し静かに置いてほしい」という意見もあるので、引き続き対応の向上に取り組んでいく。

No	質問項目	評価項目
		校務分掌
1	防災避難訓練実施計画をもとに、避難経路や避難方法、協力体制について把握することができましたか。	1 防災教育【総務】
2	教育課程についてPDCA(計画・実施・評価・改善)を行ったり、学期末に年間指導計画等を振り返ったりすることは、実態に応じた計画作成や授業改善に反映されていますか。	2 教育課程の適切な運用【教務】
3	改訂された諸表簿の記入の手引き・用字用語集の周知や活用を促す働き掛けを聞いて、それらを確認したり、活用したりしましたか。	3 諸表簿等の適切な記載【教務】
4	Co-MaMeや学習段階のチェックリストは、客観的な実態把握に役立ちましたか。	4 児童生徒の客観的な実態把握【研究】
5	所属部での研究授業を参観し、討議会の小グループで意見を交換することで、児童生徒の指導につながる気づきやヒントを得ることができましたか。	5 研修への取組【研究】
6	あなたは、学校でパソコンやタブレットコンピュータ、テレビ、プロジェクター、電子黒板などの機器を、授業や行事などで必要に応じて使うことができますか。	6 情報機器の活用【情報メディア】
7	パソコンやタブレット端末(iPad)などの使用方法について情報メディア部のアドバイスは役立っていますか。	7 コンピュータスキルの向上【情報メディア】
8	情報メディア部は、ICT機器の保守管理や、機器の取り扱いについてサポートすることができていましたか。	8 ICT機器の管理【情報メディア】
9	交通安全教室や情報モラル教室、あいさつ運動は、担当の児童生徒のマナーやモラルの向上に役立ちましたか。	9 マナーとモラルの向上【生徒指導】
10	年2回の学校生活アンケートは、児童生徒の実態を把握するのに有意義でしたか。	10 学校生活アンケート【生徒指導】
11	今年度導入された児童生徒の聞き取りのための書式(生徒指導にかかる案件フォーム)は、使いやすいですか。	11 生徒指導案件発生時の記録様式【生徒指導】
12	前期、後期の人権週間の取組を受けて、個別の学習指導計画の学期末評価において児童生徒の人権に対する意識や他者との関わりなどで、前向きな変容の評価が期待できますか。	12 人権週間の取組【人権・同和教育】
13	人権・同和教育講演会での講話、月々の雑誌の内容は、自分の人権意識を振り返り、その後の生活に生かすことができる内容となっていますか。	13 講演、書面の内容【人権・同和教育】
14	専門性の向上のために、医学講座や救急法、緊急時対応訓練などの研修は役立っていますか。	14 専門性の向上(緊急時の対応)【保健・環境】
15	月1回の全校清掃や学期末の大掃除週間は校内美化に役立っていますか。	15 環境整備【保健・環境】
16	給食や食に関する掲示や便り、放送などは、児童生徒の興味や関心をひくものになっていますか。	16 給食、食育【保健・環境】
17	事例検討会で意見交換したり情報共有したりしたことを、児童生徒の病状や特性の理解や対応に役立っていますか。	17 専門性の向上(児童生徒の理解と支援方法)【教育支援】
18	学校がセンター的機能を果たしていることや、連携訪問や教育相談など校外からの相談が多いことを知っていますか。	18 センターの機能【教育支援】
19	学校は、進路に関する資料集、進路だより、実習説明会、進路相談会を通して進路に関する情報の提供や相談が適切に行えていますか。	19 進路相談・情報提供【進路指導】
20	各学部におけるキャリア教育の目標を踏まえ、個に応じた進路支援を行っていますか。	20 個に応じた進路支援【進路指導】
21	事務室の窓口や電話の対応、取り次ぎは適切にできていますか。	21 事務室の対応【事務】
22	あなたは、普段の保護者とのやり取りやカンファレンス、CNT会、サービス担当者会議、ケース会等を通して医療及び福祉等の関係機関と必要に応じて適切に情報交換を行い、連携した指導ができていますか。	22 関係機関との連携【各学部】
23	あなたは、「実態表」を加えることで児童生徒の実態把握を深めることができましたか。	23 重点目標への取組み【各学部】
24	教員間で情報を密にし、協力して指導に取り組むことができましたか。	24 重点目標への取組み【各学部】
25	校務のDX化の一環としてアンケート集計のデジタル化が進んだと思いますか。	25 校務のDX化【各学部】

職員（配付90 回収90 回収率100%）



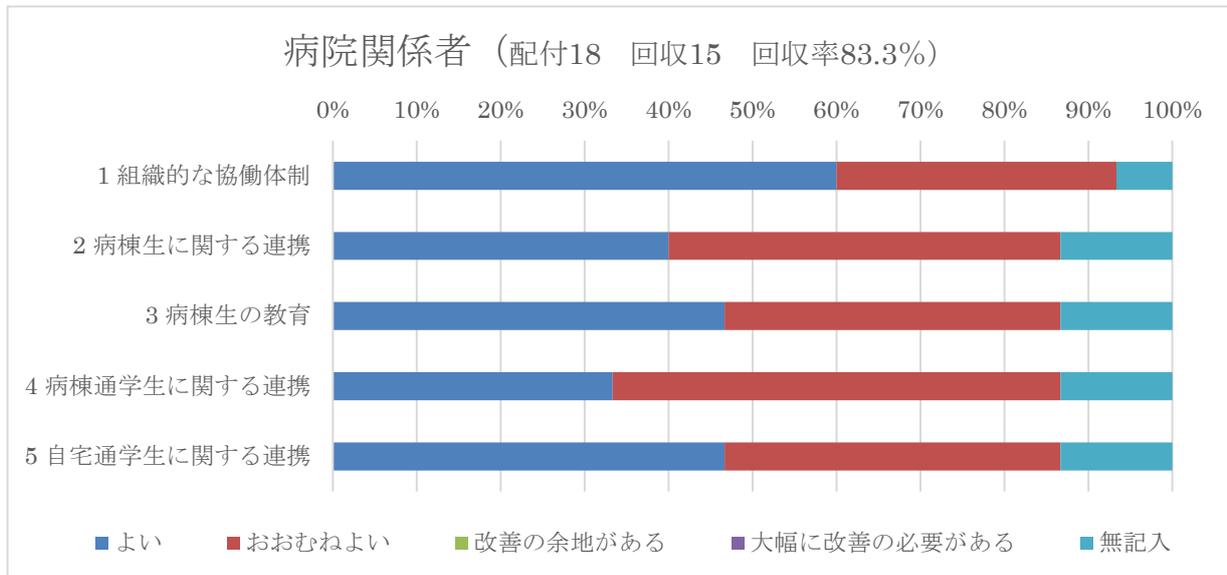
職員対象のアンケートについて

全体として概ね高評価となっている。ただ、昨年同様に事務室の対応についての評価がやや低い。それぞれの部と分掌が学校評価の結果をうけて、次年度への課題と対策についてあげているので、詳しくはそちらで触れる。

なお、「その他」の割合が多いことがあるが、「その他」は自由記述欄となっている。事務職員や学校看護師に対しても同じ内容のアンケートを実施しており、関わりのない項目についての回答を避けるため、その他を選択している場合もある。

<医療機関（四国子どもとおとなの医療センター）>

1	定期的に行事予定やたより等を配付する、必要に応じて関係者会やDNT会を開催する等の病院と学校の組織的な連絡・協議の体制は、現状どおりでよいですか。	1 組織的な協働体制
2	学校は、病棟生の教育や療育について日々の連絡、CNT会等で連携を図ることができていますか。	2 病棟生に関する連携
3	病棟生への授業形態は、現状の感染状況に応じた対面授業でよいですか。	3 病棟生の教育
4	学校は、病棟からの通学生について、日々の連絡、医教連絡簿、カンファレンス等で情報共有を図ることができていますか。	4 病棟通学生に関する連携
5	学校は、定期受診の児童生徒について、必要に応じて貴院の主治医等と連携を図りながら教育を行っていますか。	5 自宅通学生に関する連携



医療機関対象のアンケートについて

全体として良好な評価を得ている。今後とも日々の病棟とのやり取りを大切にしていきたい。また、児童生徒個々のケースの情報共有の場として「カンファレンス」を、病棟と学校の情報共有の場としての「CNT会」を、病院と学校の情報共有としての場としての「DNT会」を開催し、連携を取っていきたい。

4 各校務部及び各学部の重点目標、評価結果及び次年度への課題と改善策

令和7年度

総務部経営計画

1 校務部目標

- ・ PTA活動の活性化を図るとともに、保護者間の連携が図れるように方法を工夫する。
- ・ 地震、火事、水害などの災害に対する防災教育を行うとともに、状況に応じた避難体制を想定した訓練を実施し、防災意識と対応能力の向上を図る。

2 本年度の重点目標

- (1) 学校の様々な情報を発信することで保護者との連携を深め、保護者のPTA行事への参加や保護者同士のつながりを促進する。
- (2) 災害時の避難体制の確立と充実を図る。

3 重点目標達成のための具体的方策と評価方法

(1)について

- ① 日頃の保護者とのやりとりやPTA新聞、HP掲載等により、情報を発信する。PTA行事を早目に計画して周知し、報告やアンケートの結果などをHPやPTA新聞に掲載するなど、適切に情報を提供できたか。
- ② 関係校務部と連携して保護者対象の交流会や研修等を計画し、内容を工夫する。事前のアンケートやPTA役員会を通して保護者の知りたい情報を探り、交流会や講演の内容を検討してPTA行事を開催する。保護者の学校評価アンケートや行事後のアンケートで高評価が得られたか。

(2)について

- ① 地震、火事、水害などを想定した防災避難訓練を通し、関係機関と連携しながら迅速かつ的確に対応できる体制を作る。避難経路、避難方法、協力体制について事前に検討し、児童生徒を安全に避難誘導することができたか。

4 学校評価

評価 A：よい B：おおむねよい C：改善の余地がある D：大幅に改善の必要がある E：無記入

	評価項目(年度始に考え10月に見直し)	AB比率	分析と課題(1月)
職員	(2)防災避難訓練実施計画をもとに、避難経路や避難方法、協力体制について把握することができましたか。	96.6%	避難訓練では、関係機関と連携して防火扉を通る体験を行ったり、避難通路にガラスや物が散乱した状況を仮定して自衛防災係における各係の役割を確認したりした。教職員が児童生徒の不安に気付き、安心・安全に避難誘導するよう努めることができたと考える。
保護者	(1)学校は、保護者間の交流が深まるように、学校行事や保護者交流会等の内容を工夫して計画・実施していますか。	94.1%	今年度はアンケートをもとにPTA役員会で検討し、年2回の保護者交流会と給食試食会、障害年金についての講演と現地研修を実施した。保護者交流会には卒業生の保護者も迎え、日頃の悩みや福祉サービス、卒業後などについて情報交換した。参加した保護者からはとても参考になったと高評価を得ている。

5 達成度と次年度へ向けての課題

評価 A：ほぼ達成できた B：おおむね達成できた C：あまり達成できなかった D：ほとんど達成できなかった

達成度	次年度に向けての課題
A	(2)分散避難した場合の連絡方法の確立と避難訓練に不安を感じる生徒も含めた事前学習の充実を図る。分散避難した際の連絡方法として、トランシーバーを使用したのが、聞こえにくいこともあったので、確実に聞こえる距離の確認等を行う。不安を感じて不調になる児童生徒の把握をし、対応の仕方を考える。
達成度	次年度に向けての課題
A	(1)アンケートで保護者のニーズを探り、PTA役員会で検討して講演や研修のテーマを決める。早めに計画して案内することで、休みを取りにくい保護者も参加しやすいようにする。次年度は保護者交流としてペアレントメンターCaféに取り組んでみる。

教務部経営計画

1 校務部目標

- ・ 教育課程の適切な運用により、児童生徒の実態に応じた学習の推進を図る。
- ・ 諸表簿等の正確な記載の徹底と合理的な処理を行うための環境整備に努める。
- ・ 個別の指導計画記入の手引きの活用を促進し、正確な記載についての周知を行う。

2 本年度の重点目標

- (1) 教育課程についてPDCAサイクルで見直しや検討を行い、児童生徒の実態に応じた学習の推進を図る。
- (2) 諸表簿等の合理的な処理のために手引き・用字用語集の説明や配置を行い、諸表簿等の正確な記載の徹底に努める。

3 重点目標達成のための具体的方策と評価方法

(1)について

- ① 学習指導年間計画や個別の指導計画を活用したり、教育課程振り返りシートをもとに、各学部や各グループ等で教育課程について検討したりしながらPDCA(計画・実施・評価・改善)サイクルを確実に行う。学期末毎に、目標に向けての指導方法や指導内容の適切性を振り返り、次学期の児童生徒の実態に応じた学習計画や個別の指導計画作成につなげることができたか。

(2)について

- ① 今年度、諸表簿の記入の手引きが改訂されたことを受け、改訂点を確認、疑問点の検討共有をしながら、正確な記載を心掛けるよう周知したり点検したりする。年度初めの説明会で改訂点を含む記載についての説明を行い、正確な記載について周知したり、手引きに基づく点検を行ったりして、正しい記載に努めることができたか。
- ② 文書等の様式、記入の手引き、用字用語集等の諸表簿記入に必要な資料の整理統合に努める。整備した様式や、記入時に確認しやすい場所に配置した手引きや用字用語集について適宜周知することで活用を促し、アンケート調査を実施して活用を確認することができたか。

4 学校評価

評価 A：よい B：おおむねよい C：改善の余地がある D：大幅に改善の必要がある E：無記入

	評価項目(年度始に考え10月に見直し)	AB比率	分析と課題(1月)
職員	(1)教育課程についてPDCA(計画・実施・評価・改善)を行ったり、学期末に年間指導計画等を振り返ったりすることは、実態に応じた計画作成や授業改善に反映されていますか。	97.6%	教育課程振り返りシートを使って、各グループで児童生徒の実態に応じた教育課程を検討したり次年度に向けて改善案を話し合ったりする機会を設定できたと思う。
	(2)改訂された諸表簿の記入の手引き・用字用語集の周知や活用を促す働き掛けを聞いて、それらを確認したり、活用したりしましたか。	97.6%	目標設定や評価の時期毎に、教員が意識して手引きや用字用語集を確認したり活用したりできるように係が積極的に活用を周知・促進したことが評価につながっていると感じている。
保護者	個別の指導計画(通知表)の目標は、児童生徒の実態に即した目標でしたか。	98.8%	児童生徒の実態を適切に把握して、児童生徒の課題に応じた目標を設定し、その目標についての説明を行い、保護者から理解を得ることができた。

5 達成度と次年度へ向けての課題

評価 A：ほぼ達成できた B：おおむね達成できた C：あまり達成できなかった D：ほとんど達成できなかった

達成度	次年度に向けての課題
B	(1)教育課程振り返りシートを使った教育課程の検討や、学期末の年間指導計画の振り返りについて引き続き行い、児童生徒の実態に応じた教育計画の作成や授業改善に役立てられるよう働き掛ける。また、授業時数の確認や行事等の見直しを行うために、今後も授業時数調べ表を活用し実態把握に努める。
達成度	次年度に向けての課題
B	(2)次年度は学校訪問があるので、年度初めの記入説明会では丁寧な説明を行い、時期毎の手引きや用字用語集の確認や活用についての周知や丁寧な点検に努めることで、正確な記載につなげていく。

研究部経営計画

1 校務部目標

- ・ 児童生徒の客観的な実態把握についての取り組みや活用法について教師間で学びあう。
- ・ 児童生徒の読書に対する意欲を高める。
- ・ 特別支援学校の教師として必要な知識を身に付け、技能の専門性を高めるための研修を充実させる。

2 本年度の重点目標

- (1) 児童生徒一人一人の学習面や生活面での困り感を適切にとらえ、目標を明確にした指導を行うためにCo-MaMeや学習段階のチェックリストを使用し、客観的な実態把握をする。
- (2) 児童生徒の心理的な安定や人間関係の形成を重視した指導・支援方法についての研修会を効果的に行う。

3 重点目標達成のための具体的方策と評価方法

(1)について

- ① 教師間で共通理解を図るために、Co-MaMeや学習段階のチェックリストを使用し、事例シートの作成を行う。初めての教師にも分かりやすいように説明会を行ったり、シートに改善を加えたりして、アセスメントのしやすさにつなげる。各グループで1名以上の児童生徒に対して個に応じた方法で評価分析を行い、その結果をグループ会等にて報告する。
- ② 各部で研究授業を行い、授業討議を通して、部内での指導に対する共通認識を深める。指導内容についての一貫性を図るために、「いいところ発見シート」を使用したグループ討議を行い、情報や意見を交換し合う。

(2)について

- ① 年度当初に研修会のもち方について周知し、校内の教師の様々な取組や専門的な知識を共有するための校内研修会を計画的に実施する。研修会前に、部朝礼で研修内容や対象のグループなどを知らせ、参加を呼び掛ける。
- ② 校外での研修会・訓練会への参加や情報収集に努め、分かりやすく整理して全教師に周知する。全国病弱教育研究連盟、中国・四国地区病弱教育研究連盟との連絡を密に行い、全国等での病弱教育における最新情報を収集する。収集した情報については、全教師へ情報提供する。

4 学校評価

評価 A：よい B：おおむねよい C：改善の余地がある D：大幅に改善の必要がある E：無記入

	評価項目(年度始に考え10月に見直し)	AB比率	分析と課題(1月)
職 員	(1)Co-MaMeや学習段階のチェックリストは、客観的な実態把握に役立ちましたか。	97.6%	Co-MaMe、学習段階のチェックリストともに実態や課題を複数の教師間で検討し、共通理解を図るツールとして適していると考えられるが、回答数はBがAの倍以上だったので、改善点を検討したい。
	(2)所属部での研究授業を参観し、討議会の小グループで意見を交換することで、児童生徒の指導につながる気付きやヒントを得ることができましたか。	95.1%	回答数はAとB同数程度であった。各部とも部全体で実施するので、他グループの様子を知ることができ、情報交換の機会になっていると考えられる。参加できなかったとの回答があったので、その場合の改善策は必要である。

5 達成度と次年度へ向けての課題

評価 A：ほぼ達成できた B：おおむね達成できた C：あまり達成できなかった D：ほとんど達成できなかった

達成度	次年度に向けての課題
B	(1)Co-MaMe、学習段階のチェックリストともに、客観的な実態把握をするためのツールとして役立っていると考えられるので、継続していく。Co-MaMeは、ガイドブックが使いやすく全体として定着しつつある。学習段階のチェックリストについては、対象児童生徒の実態に幅があり、重度の障害がある児童生徒対象とするにはチェック項目に難しい部分もある。現職教育として研修の機会を設ける。
達成度	次年度に向けての課題
B	(2)討議会の進め方は定着しているので継続していく。研修を通じて視野が広がるように、研究授業の授業者を決める際には、グループ・教科・対象学級などに配慮する。iPadで動画撮影した研究授業を所属部だけでなく、他学部の教師も視聴できるようにクラスルームを活用する。討議会の欠席者には、討議会の記録を回覧する。全体的な職員研修の形態としてオンデマンド化が進むように研修ごとのデジタルコンテンツを作っていく。

情報メディア部経営計画

1 校務部目標

- 多数のタブレット端末の管理と、アプリケーションソフトのインストールなどの保守管理、教室に整備されたWi-Fi環境を利用したICT機器の新たな活用方法について検討する。
- ホームページ等を活用して、本校の情報や実践を保護者や関係者、校外に広く発信する。
- 職員が一人一台iPadを各自操作して、職員会議でリモート接続を行えるようにするなど、日々の業務での活用方法を検討する。
- 他の校務部と連携を図り、各種行事や研修会などを、円滑に実施できるようにする。

2 本年度の重点目標

- (1) ICT(情報通信技術)を活用した授業や、iPadでのAT(支援技術)および電子黒板を活用できる教員を育成する。

3 重点目標達成のための具体的方策と評価方法

(1)について

- アプリケーションなど ICT活用の研修会や、機器を利用した教材作成等の研修会を実施する。
- ICTやATについてサポートを行う体制作りをする。
- 情報メディア部員内で、iPadを使用したATの活用方法について研修会などを行う。

4 学校評価

	評価項目(年度始)	AB比率	分析と課題(1月)
職員	(1)あなたは、学校でパソコンやタブレットコンピュータ、テレビ、プロジェクターなどの機器を、授業や行事などで必要に応じて使うことができますか。	92.9%	各学部で情報メディア部員が行事等で機器使用について説明できている結果だと思う。新しい機器が配置された場合には、早急に部内での研修を行う必要がある。
	(1)パソコンやタブレット端末(ipad)などの使用方法について情報メディア部のアドバイスは役立っていますか。	96.4%	6月にWindows11への変更を説明して、時間的に余裕のある夏休み中に実施できたのがよかった。また、9月にNHK+が変更となったが、対応を早急にできたのも一要因であると思われる。
	(1)情報メディア部は、ICT機器の保守管理や、機器の取り扱いについてサポートすることができていましたか。	91.8%	とくに校務で使用頻度の高いプリンタのトナーやインクカートリッジを早急に交換できていたと思う。事務との協力とカラープリンタの使用についてアドバイスしていく必要がある。

5 達成度と次年度へ向けての課題

評価 A：ほぼ達成できた B：おおむね達成できた C：あまり達成できなかった D：ほとんど達成できなかった

達成度	次年度に向けての課題
A	電子黒板の活用推進を行っていく。 Forms,Classroomの校内研修を行う。 新しい機器が配置された場合には、早急に部会で周知し使い方や管理方法等を伝える。

生徒指導部経営計画

1 校務部目標

- ・ 児童生徒一人一人の人格を尊重し、個々の実態に応じた支援を行いながら、社会的資質や行動力を高める。
- ・ 児童生徒を取り巻く人々との連携を密にし、協力しながら、健全な人間形成を目指す。
- ・ 自尊感情や自己存在感を高められるように、特別活動を充実させる。

2 本年度の重点目標

- (1) よりよい人間関係を築くために、ルールやマナーを教え、社会生活や集団への適応性を培う。
- (2) いじめ等の問題行動の未然防止や早期解決のための体制づくりをする。

3 重点目標達成のための具体的方策と評価方法

(1)について

- ① 教師が積極的に挨拶や言葉掛けを行い、また、児童生徒による「あいさつ運動」を実施する。児童生徒会活動において、各学期1回程度、自主的に「あいさつ運動」を行うことができたか。
- ② 専門的に指導できる外部講師を招へいし、情報モラルや交通安全に関して学習する機会を設ける。各グループ内で事後のふり返しを行い、児童生徒の病状や発達段階に応じた指導ができていたか、規範意識が高めることができたか。

(2)について

- ① 問題行動の根本的な解決を目指すために、児童生徒の抱える課題や背景を理解する。学校生活アンケートを年2回行い、児童生徒の意見や情報をできる限り集めることができたか。
- ② いじめ防止および早期発見に向けて、全教職員の共通理解を深める。指導方針の一貫性を図るために記録用のフォーマットを統一し、事案が発生した場合、「いじめ防止基本方針」やフローチャートに基づいた対応を取ることができたか。

4 学校評価

評価 A：よい B：おおむねよい C：改善の余地がある D：大幅に改善の必要がある E：無記入

	評価項目(年度始に考え10月に見直し)	AB比率	分析と課題(1月)
職員	(1)交通安全教室や情報モラル教室、あいさつ運動は、児童生徒のマナーやモラルの向上に役立ちましたか。	100%	交通安全及び情報モラル教室では、児童生徒の体験活動を取り入れたことで、意識の向上につながった。あいさつ運動は生徒会が自主的に毎月行ったが、参加役員が少なかった。
	(2)年2回の学校生活アンケートは、児童生徒の実態を把握するのに有意義でしたか。	98.8%	Googleフォームによる回答を取り入れて、より高い回答率を目指したが、紙ベースを希望する人が圧倒的に多かった。実態把握にどのように役立っているかが今後の課題である。
	(2)今年度導入された児童生徒の聞き取りのための書式は、使いやすいですか。	100%	新様式を取り入れたが、実際使う事案が少なかった。今後も周知を行い、利用を促したい。

5 達成度と次年度へ向けての課題

評価 A：ほぼ達成できた B：おおむね達成できた C：あまり達成できなかった D：ほとんど達成できなかった

達成度	次年度に向けての課題
B	(1)ルールやモラルの向上を目指して、生徒の自主的・主体的な活動をどのように進めていくか。参加者増加に向けて、曜日や時間を広く知らせ、役員以外からの参加を募ってみる。
達成度	次年度に向けての課題
B	(2)生徒の実態把握や問題行動の防止や解決に向けて、効果的なアプローチはどのようなものがあるか。学校生活アンケートの取り方や内容等を再検討し、より児童生徒の実態を把握しやすく、活用しやすいものを作る。

人権・同和教育部経営計画

1 校務部目標

- ・ 学校における全ての教育活動を通して人権・同和教育を積極的に推進する。
- ・ 全教職員が高い人権意識をもち、指導や支援を行うことを推し進める。
- ・ 児童生徒がお互いをひとりの人間として尊び合う人間性豊かななかまづくりを進める。

2 本年度の重点目標

- (1) 日常的な学習指導による自尊感情と人権感覚の育成に取り組む。

- (2) 人権意識を高めるための教職員研修の実施や保護者啓発を行う。

3 重点目標達成のための具体的方策と評価方法

(1) について

- ① 7月と12月に人権展を実施し、児童生徒に感想を述べてもらうことで、児童生徒の人権意識の変化や高まりを確認する。

- ② 学習指導年間計画に「児童生徒の自尊感情を育てる」「人権意識を養う」というねらいを含める。年度末に、授業内容を分析して指針に沿った支援での改善授業を行うことができたか。を確認する。

(2) について

- ① 学期末に人権だより「心のとびら」を発行し、感想の提出をお願いすることで、啓発がどの程度できているかを確認し、次の発行の際に、より啓発ができるように改善する。

- ② 年1回、教職員向けに人権・同和教育講演会を実施し、月々の冊子「ヒューマンライツ」「であい」が届いたことを伝える。月々の啓発雑誌の購読率を60%以上を目指す。

4 学校評価

評価 A：よい B：おおむねよい C：改善の余地がある D：大幅に改善の必要がある E：無記入

	評価項目(年度始に考え10月に見直し)	AB比率	分析と課題(1月)
職員	(1)前期、後期の人権週間の取組を受けて、個別の学習指導計画の学期末評価において児童生徒の人権に対する意識や他者との関わりなどで、前向きな変容の期待ができたか。	96.4%	評価が高いことから、次年度も人権週間を設ける。心のとびらにも掲載して啓発できる。「生徒の実態により難しい」との意見があり次年度は、各クラス担任と事前に打ち合わせをし、生徒に合った教材提供を行う。
	(2)人権・同和教育講演会での講話、月々の雑誌の内容は、自分の人権意識を振り返り、その後の生活に生かすことができる内容となっているか。	96.6%	講話のアンケート結果は、非常に自己を振り返ることや新たな視点が見つかったとの意見であった。月々の雑誌は、回覧も一つの方法として取り入れる。
保護者	学校は人権に関する情報を児童生徒の指導に活かしており、人権意識が高まる取組ができていますか。	98.8%	よく指導されているとの意見があり、今年度の取組は良かったと考える。引き続き保護者への啓発も含めて、次年度も取り組みを継続する。

5 達成度と次年度へ向けての課題

評価 A：ほぼ達成できた B：おおむね達成できた C：あまり達成できなかった D：ほとんど達成できなかった

達成度	次年度に向けての課題
B	(1)クラス・グループの中でも、一人一人実態が違うことで、一つの題材や内容に取り組むことや理解することが難しい場面がある。発表作品作りを通して人権学習に取り組んでいることは児童生徒に意識付けができています。さらに自らの実践行動力が付くようにする。クラスの中で一つの題材に取り組むときに、どのような方法で、取組や理解をさせるかを教員間で共有し共通理解を行う。 人権週間の年間計画を作り直し、年度初めの部会で周知をして教員間でねらいや題材等の共通理解を図る。
達成度	次年度に向けての課題
B	(2)できれば、月々の雑誌の購読率を高くしていくように啓発する。全ページを毎月読むのは難しいかもしれない。今年度のように、その時々々の社会情勢や知っていただきたい内容に応じたトピックスの見出しだけでも、今年度と同様に周知をする。部会のときに、一部記事を紹介する。こころのとびらは、今年度同様、各学期末に発行する。

保健・環境部経営計画

1 校務部目標

- ・ 児童生徒の健康で安全な生活を目指し、健康教育の充実を図る。
- ・ 病気理解や医療的ケア、また緊急時の対応についての研修を行い、教職員の専門性の向上を図る。
- ・ 校舎内外の環境整備に努める。
- ・ 学校給食や食育を通して、児童生徒の心身の発達を図る。

2 本年度の重点目標

- (1) 児童生徒が食に興味を湧くように、給食や食に関する情報を発信する。

3 重点目標達成のための具体的方策と評価方法

(1)について

- ① ・児童生徒保健美化委員会で、給食をテーマに活動する。
 ・「給食献立表」を発行すると共に、昼食の時間に給食の献立とそれに関する情報を放送する。
 ・季節の話題を取り入れた「食育だより」を発行したり、栄養、食品について楽しく学べるような食育掲示を行う。
- ② 児童生徒と職員に向けて、給食や食に関心がもてたかを問い、60%が興味をもてたら目標達成とする。

4 学校評価

評価 A：よい B：おおむねよい C：改善の余地がある D：大幅に改善の必要がある E：無記入

	評価項目(年度始に考え10月に見直し)	AB比率	分析と課題(1月)
職員	専門性の向上のために、医学講座や救急法、緊急時対応訓練などの研修は役立っていますか。	100%	年度途中の児童・生徒の医療的ケアの追加・変更が多く、教員が使命感をもって訓練や講座に臨んでいたように思う。
	月1回の全校清掃や学期末の大掃除週間は校内美化に役立っていますか。	98.9%	全校清掃は、運動場の草抜きに加えて校内の清掃にも取り組んだ。行事に向けて、学期末のまとめ、と目標をはっきりさせることで、前向きに清掃に取り組めた。
	(1)給食や食に関する掲示や便り、放送などは、児童生徒の興味や関心をひくものになっていますか。	97.8%	児童生徒保健美化委員会で、「楽しく給食を食べよう」と献立作成や放送に取り組んだ。食育掲示や給食掲示板なども好評であった。

5 達成度と次年度へ向けての課題

評価 A：ほぼ達成できた B：おおむね達成できた C：あまり達成できなかった D：ほとんど達成できなかった

達成度	次年度に向けての課題
A	(1)児童生徒へのアンケートでは、給食の時間の献立とそれに関する情報の放送が「よい」が76.5%、児童生徒保健美化委員が立てた給食献立が「よい」が76.7%であった。教職員からも給食や食に関する取り組みは、96.3%が児童生徒の興味や関心をひくものになっていると評価されていることから、今年度の重点目標は達成したと考える。専門性向上のための研修や、校内美化のための清掃も高い評価で達成した。研修に関しては、広く教職員に呼び掛けたり、デジタルコンテンツを作ったりして学ぶ機会を増やしていきたい。

教育支援部経営計画

1 校務部目標

- ・ 特別支援教育(病弱教育)における児童生徒の実態把握や支援について、教員の専門性向上を推進する。
- ・ 病弱教育及び地域における特別支援教育のセンター的機能の充実を図る。

2 本年度の重点目標

- (1) 児童生徒の支援方法について、校内研修会を実施したり支援に関する情報を共有したりして教員の専門性の向上を図る。
- (2) 校内外における教育相談を充実させる。

3 重点目標達成のための具体的方策と評価方法

(1)について

- ① 校内研修会や保護者座談会等を企画し、積極的な参加を呼び掛ける。半数以上の出席、もしくは、研修会や保護者座談会の内容を全職員が把握できるよう、情報提供をすることができたか。
- ② 全職員参加の事例検討会を企画し、実態把握と支援策の実務研修を実施する。学部間の連携を図り、支援についての意見交換や情報共有を行うことができたか。

(2)について

- ① スクールカウンセラーとの連携、ほっとルームの運営や教育相談により、校内の相談支援体制を充実させる。全体、及び悩みを抱えている児童・生徒、保護者や職員に対し利用を呼び掛けることができたか。
- ② 地域のニーズを考え、中讃地域オンライン教育相談会を計画・実施したり、連携訪問や教育相談に対して、積極的に支援したりする。相談内容を部員間で共有、支援方法等検討することで、教育支援部全体で相談に対応することができたか。

4 学校評価

評価 A：よい B：おおむねよい C：改善の余地がある D：大幅に改善の必要がある E：無記入

	評価項目(年度始に考え10月に見直し)	AB比率	分析と課題(1月)
職員	(1)事例検討会で意見交換したり情報共有したりしたことを、児童生徒の病状や特性の理解や対応に役立てていますか。	98.8%	検討会後に実施したアンケート結果からも、他学部の教職員と意見交換や情報共有を行ったり、学校医に指導助言をいただいたりしたことで、児童生徒の病状や特性の理解を深め、日頃の指導支援につなげられたのではないかとと思われる。
	(2)学校がセンター的機能を果たしていることや、連携訪問や教育相談など校外からの相談が多いことを知っていますか。	97.6%	センター的機能を担い、相談事業に対応する職員が限られている。そのため、全体現教やたより等を通して、こころとからだの相談センターの事業内容や校外から寄せられる相談内容について周知し、内容によっては職員へ各種相談事業への協力依頼を進めていく。
保護者	学校は、スクールカウンセラーによる教育相談や座談会などを計画・実施し、児童生徒について相談できる十分な環境を整えていますか。	98.8%	担任やグループの職員に相談するケースが多いと思われ、スクールカウンセラーによる教育相談の利用や座談会の参加は少ないものの、PTA総会やたより等での案内により、相談できる場があることは周知できていると思われる。

5 達成度と次年度へ向けての課題

評価 A：ほぼ達成できた B：おおむね達成できた C：あまり達成できなかった D：ほとんど達成できなかった

達成度	次年度に向けての課題
B	(1)事例検討会により多くの職員が出席できるよう、日時や場所等について検討する。また、事例検討会だけでなく、全体現教などの機会を利用して、情報共有できる場の設定も考えていきたい。
達成度	次年度に向けての課題
A	(2)センター的機能の一つである教育相談も含め、いつでも相談できる体制を整えていることもあわせて周知していきたい。引き続き、たよりでこころとからだの相談センターの取組を紹介したり、校外からの相談内容を掲載して対応について考える機会を設けたりして、相談支援事業への関心をもってもらえるようにする。

進路指導部経営計画

1 校務部目標

- ・ 児童・生徒の個性や能力及び適性を十分に把握し、個に応じた進路指導に努める。
- ・ 児童・生徒、保護者及び教職員に必要な進路に関する情報の提供に努める。
- ・ 各関係機関と連携し、卒業生の追指導の充実を図る。

2 本年度の重点目標

- (1) 関係機関と連携することで、保護者に対して進路に関する情報の提供や働き掛けを強化する。

3 重点目標達成のための具体的方策と評価方法

(1)について

- ① 自立支援協議会等に参加したり、個別に訪問したりして、会社や福祉サービス事業所等の情報収集を行う。関係機関に進路相談会への参加や現場実習巡回等の協力を依頼する。
- ② 進路相談会、進路に関する催しや進路だより等を通して、保護者に進路啓発を行う。他校務部と協力して、PTA現地視察や座談会等参加し、保護者と関わる機会を設ける。

4 学校評価

評価 A：よい B：おおむねよい C：改善の余地がある D：大幅に改善の必要がある E：無記入

	評価項目(年度始に考え10月に見直し)	AB比率	分析と課題(1月)
職員	(1)学校は、進路に関する資料集、進路だより、実習説明会、進路相談会を通して進路に関する情報の提供や相談が適切に行えていますか。	97.6%	肯定的な回答が多いが、改善の余地があるとの回答もあった。学級担任と連携し、生徒の実態把握や本人・保護者の進路希望を把握して、情報の提供や相談が行えるようにする。
	(1)各学部におけるキャリア教育の目標を踏まえ、個に応じた進路支援を行っていますか。	96.5%	肯定的な解答が多いが、各学部における進路指導につながる必要な学習について伝えられるようにする。
保護者	(1)学校は、進路に関する資料集、進路だより、実習説明会、進路相談会を通して、進路に関する情報の提供や相談が適切に行えていますか。	97.7%	肯定的な解答が多かったが、中・高等部で各1名改善の余地があるとの回答があった。地域の社会資源や進路に関する催し等の情報を収集し、進路相談ができるよう努める。

5 達成度と次年度へ向けての課題

評価 A：ほぼ達成できた B：おおむね達成できた C：あまり達成できなかった D：ほとんど達成できなかった

達成度	次年度に向けての課題
B	(1)職員に卒業後の進路先での様子や福祉サービスの内容や種類、仕組みなどの基本的な情報を提供することで、児童・生徒の個性や能力及び適性を把握した、個に応じた進路指導に役立ててもらおう。夏休み中の事業所訪問(追指導)を、卒業生が利用している事業所を中心に行う。夏期の進路に関する講演会について、卒業生がよく利用する福祉サービスの内容や種類と、新しく始まった就労選択支援事業について取り上げる。(外部講師を依頼する予定)

令和7年度各部の目標及び重点目標における評価結果と次年度への課題と改善策

学部等	評価項目（・）及び対象	評価結果	次年度への課題（・）と改善策（*）
小学部	<ul style="list-style-type: none"> 情報提供・保護者 	<ul style="list-style-type: none"> A・B評価は100%である。高評価をいただいた。保護者のニーズを確かめながら、迅速に適切な情報の提供に努めた結果だと考える。 	<ul style="list-style-type: none"> 継続実施
	<ul style="list-style-type: none"> 保護者とのコミュニケーション・保護者 	<ul style="list-style-type: none"> A・B評価は95.7%である。昨年度に引き続き高評価をいただいた。教員が話しやすい環境作りに努め、対面での送迎時だけでなく、連絡帳、電話等で情報を共有した。内容によっては養護教諭、グループ主任や部主事も関わった。 	<ul style="list-style-type: none"> 継続実施
	<ul style="list-style-type: none"> 関係機関との連携・職員 	<ul style="list-style-type: none"> A・B評価は92.0%である。部会やグループ会、朝礼などで互いに共有することを心掛けた。また、必要に応じて医療や福祉等関係機関との連携を行い、児童を取り巻く環境を整えた。 	<ul style="list-style-type: none"> 校内での連携については十分である。校外との連携についてはさらに考えていく必要がある。
	<ul style="list-style-type: none"> 校務のDX化・職員 	<ul style="list-style-type: none"> A・B評価は92.2%である。アンケート集計のデジタル化の推進については、一定数取り組んだものがあった一方で、回答者数が減ったという実情もあった。 	<ul style="list-style-type: none"> 部分的に少しずつDX化を進める。
	<ul style="list-style-type: none"> ○ 重点目標への取り組み・職員 	<ul style="list-style-type: none"> A・B評価は96.4%(実態把握)、94.3%(職員間の協力)である。児童の実態を学級やグループで共有し、実践のなかで効果的な指導の在り方を探ってきた。また、実態把握は、客観的な視点でアセスメントを行い、目標や指導内容に活用した。 	<ul style="list-style-type: none"> * 情報共有を密にすることにより、グループを超えて小学部全体で共有していく。必要により校外との連携を深める。 * DX化に向けての手立ての研修を行うとともに決められた部分に取り組む。 継続実施 * グループ間でも協力して指導を行えるように、主任会を実施する。

評価 A：ほぼ達成できた B：おおむね達成できた C：あまり達成できなかった D：ほとんど達成できなかった

令和7年度各部の目標及び重点目標における評価結果と次年度への課題と改善策

学部等	評価項目（・）及び対象	評価結果	次年度への課題（・）と改善策（*）
<p>中学部</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 情報提供・保護者 	<ul style="list-style-type: none"> ・ A・B評価は100%であった。昨年度から9.5%アップし、今回高評価を頂いた。保護者が求めている情報に対して、教員間で共有しながら迅速かつ丁寧に提供できた結果と考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 継続実施
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 保護者とのコミュニケーション・保護者 	<ul style="list-style-type: none"> ・ A・B評価は100%であった。昨年度に引き続き高評価を頂いた。連絡帳、送迎時、電話連絡等、いろいろな場面や手法で保護者と情報を共有し、またグループ主任や部主事も交えて関わられた結果と考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 継続実施
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 関係機関との連携・職員 	<ul style="list-style-type: none"> ・ A・B評価が92.0%。改善の余地があるとの回答もあった。教員間では、日々の会話やグループ会、部会で情報交換、共通理解を心掛けた。必要に応じて、医療及び福祉等の関係機関との情報交換や連携も図った。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 関係諸機関との連携
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 校務のDX化・教職員 	<ul style="list-style-type: none"> ・ A・B評価が92.9%であったが、改善の余地があるとの回答もあった。デジタル化でアンケートへの回答形式は容易になったが、入力及び提出を忘れていた結果と考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ アンケート提出率の向上
	<ul style="list-style-type: none"> ○ 重点目標への取り組み 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 実態表の使用では、A B評価が96.4%。改善の余地があるとの回答もあった。客観的な視点で目標や指導内容を考える上でチェックリストも使用して実態把握を行った。さらに活用できるよう定着を図る。教員間の情報共有、協力体制での取り組みは、A B評価は94.3%。密な情報交換、共有、共通理解を心掛け、学部全体で生徒の指導に取り組むことができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 実態表やチェックリスト活用の定着 * 全体像の把握としての実態表と客観的な実態把握に向けてのチェックリストを併用する。その結果をクラスやグループで話し合い、効果的な指導方法や体制を探る。

評価 A：ほぼ達成できた B：おおむね達成できた C：あまり達成できなかった D：ほとんど達成できなかった

令和7年度各部の目標及び重点目標における評価結果と次年度への課題と改善策

学部等	評価項目（・）及び対象	評価結果	次年度への課題（・）と改善策（*）
高等部	<ul style="list-style-type: none"> ・ 情報提供・保護者 ・ 保護者とのコミュニケーション・保護者 ・ 関係機関との連携・職員 ・ 校務のDX化・職員 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 情報提供ができているとの95%を超える肯定的回答を得られたが、改善の余地があるとの回答を1件得た。 ・ コミュニケーションを取ることができていると95%を超える肯定的回答を得られたが、無回答を1件得た。 ・ 適切な情報交換や連携した指導については約92%の達成できているとの肯定的回答が得られたが、改善の余地があるとの回答も得た。 ・ アンケート集計のデジタル化が進んでいることを全員が肯定的に回答した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 情報提供の多元化 * DX化を含めた情報提供方法や媒体（クラウドやHP等）の多様化促進。 ・ 継続実施 * 過去を踏まえ、現在と未来の両面を見据えたコミュニケーションの促進。 ・ 卒業後の生活を見据えた多職種連携 * DX化を含めた連携方法の多様化（オンラインなど）促進。機会の創出・拡大。 ・ 継続実施 * アンケート以外のDX化検討。
	<ul style="list-style-type: none"> ○ 重点目標への取り組み・職員 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 実態表を活用した実態把握の取り組みに、全員が実態把握を深められたとの回答であった。 ・ 教員間で情報を密にして協力して指導に取り組むことについては約94%の達成できているとの肯定的回答が得られたが、改善の余地があるとの回答も複数得た。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 指導計画における対話と協働の促進 * 学習指導評価期間の適正化と業務集中期の業務分散化による対話と協働の促進。知的代替教育課程の個別の指導計画2期制導入の検討。

評価 A：ほぼ達成できた B：おおむね達成できた C：あまり達成できなかった D：ほとんど達成できなかった

令和7年度各部の目標及び重点目標における評価結果と次年度への課題と改善策

学部等	評価項目（・）及び対象	評価結果	次年度への課題（・）と改善策（*）
事務部	<ul style="list-style-type: none"> 事務室の対応・保護者・職員 	<ul style="list-style-type: none"> 電話対応が丁寧でない方がいるのが気になる。（声のトーン、受話器の置き方） 保護者の間違いか、取り次ぎがうまくいっていないのかわからないか、生徒の遅刻や欠席が学級まで伝わっていないことがあった。 	<ul style="list-style-type: none"> 窓口や電話での対応に丁寧さを欠くことがある。 * 接遇の基本を確認（マニュアル化）し、実践することで、来校者、保護者等への丁寧な対応に努める。 * 特性のある職員の採用もあることをお知らせし、引き続き理解を求める。 欠席連絡の取り次ぎが、できていないことがある。 * 保護者からの聞き取り内容を明確にし（フォームの作成）、聞き取った内容は、確実に伝える。

評価 A：ほぼ達成できた B：おおむね達成できた C：あまり達成できなかった D：ほとんど達成できなかった

5 学校評議員及び学校関係者における評価委員会

令和8年2月18日に学校評議員及び学校関係者（PTA 会長及び副会長）による評価委員会を実施し、以下のような意見を得た。これらの意見を踏まえ、次年度の教育活動や学校運営の改善に生かす。

評議員より

- ・希望の会に関して、日頃の職員の努力が表れていた。児童・生徒とのつながりも感じられた。
- ・学校に対して不安を感じている児童・生徒に対して、個に応じた対応をしてもらえていて感謝をしている。
- ・昨年度の卒業式に参加して、小学校、中学校、高等学校などでつらい思いをして入学している児童・生徒がいることがわかった。市町の学校でも上手くいくように連携して行ってほしい。
- ・グループ間での連携について、部会での情報共有も大切だが、主任会のように少し小さいグループで情報共有することも有効だと思う。

PTA より

- ・アンケートの結果が示すように、保護者と職員とのコミュニケーションがとりやすい。職員を身近に感じることができる。いろいろな話ができ、相談がしやすくありがたい。